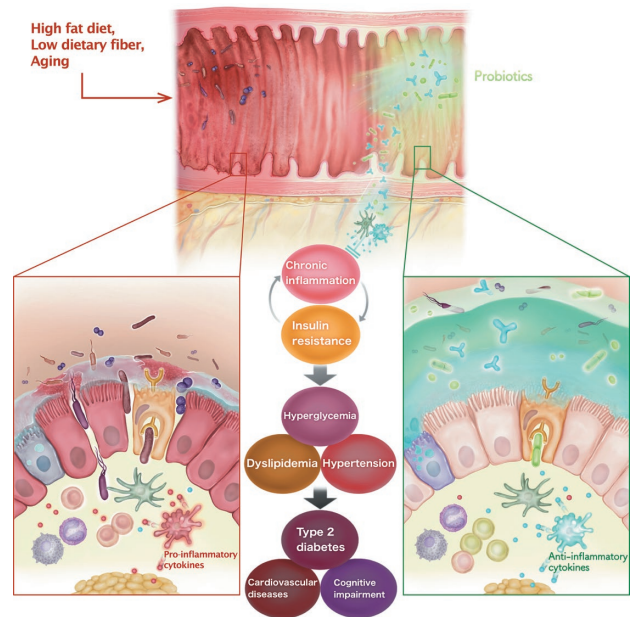


プロ/ポストバイオティクスを 応用した 肥満・糖尿病への対策

肥満症や糖尿病では肥大した脂肪組織に慢性炎症が生じ、その結果、インスリン抵抗性・血管合併症が発症すると考えられてきた。近年、これらの個体の腸内細菌叢に偏りが認められ、また腸管のバリアやホルモン分泌が変化し、下流臓器の内臓脂肪や肝臓に炎症が生じることが示され注目を集めている。疾病の予防・治療に重要な食事栄養療法は、腸内細菌・腸管内代謝への直接的な介入と解釈可能であり、実際に難消化性多糖や特定の脂質が腸管機能を修正し病態を改善するとの基礎・臨床研究が多数報告されている。運動によっても腸管内アミノ酸代謝は変化し、また糖尿病治療薬メトホルミンは特定の腸内細菌と胆汁酸を増加し病態を修正することが明らかにされた。これらの知見を踏まえると、プロ/ポストバイオティクスを用いた肥満・糖尿病の予防は極めて合理的なアプローチと考えられる。本講演では腸管機能を介した肥満・糖尿病への対策を紹介したい。



日時 2026年6月9日(火) 12:15~13:15 (開場12:00)

場所 タワーホール船堀 2F瑞雲

共催 株式会社 明治

座長



山田 悟 先生
(北里大学北里研究所病院
糖尿病センター長)

講演



入江 潤一郎 先生
(関西医科大学 医学部内科学第二講座糖尿病科 診療教授)

[略歴]

平成 8年 4月 慶應義塾大学病院 内科 研修医
平成10年 5月 埼玉社会保険病院 内科 医員
平成11年 6月 国家公務員共済組合連合会 立川共済病院 内科 医員
平成12年 4月 慶應義塾大学医学部 内科(腎臓内分泌代謝) 助手
平成15年 7月 米国ピッツバーグ大学医学部 臨床免疫学講座 研究員
平成18年 4月 北里研究所病院 糖尿病センター 副センター長
平成19年10月 慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科 助教
平成25年10月 慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科 専任講師
令和 3年 6月 慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科 准教授
令和 6年 4月 関西医科大学 第二内科 糖尿病科・内分泌内科 診療科長・教授